

重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価
		評価	成果（○）と課題（＊）	意見・要望・評価等
主体的に学びに向かう意欲を喚起し、学力向上につながる取組	① すべての学習場面における探究活動の推進による、自ら思考し、行動できる自律的な学習態度の育成。	B	○学校全体で、主体的・協働的な学びの場面を取り入れ、授業内容充実や探究活動推進に向けての指導が効果を上げている。 ○探究学習指導について全体研修会を実施し、指導者の研修や工夫に役立てた。探究ゼミ発表会の改善や研究内容に関して生徒の思考や行動を広げる活動ができた。 ○各教室の大型提示装置設置、Google Workspace 活用でICT教育充実促進。 ○今年度ICT推進拠点校となり、研修会や日頃の実践を通して、職員全体でそのスキルを上げた。 ○学習時間の確保と節度ある活動となるように各部で部活動計画をたて行った。 ＊主体的・協働的な学びの場を増やす。 ＊探究学習の指導の更なる充実に向けて、指導者の研修や工夫。	・学習指導要領が改訂となり、授業内容や評価がかなり変わったが、今後とも、基礎学力を身に付けながら、生徒の主体性がさらに高まるように支援して欲しい。 ・生徒・保護者アンケートから見ても概ね達成されていると言える。 ・学校全体で研修や実践を重ねて、ICTを活用してきている。
	② 生徒の学力状況・到達目標を踏まえ、指導と評価の一体化が図られた授業や学習活動の充実。	B		
	③ 基礎的読解力の土台の上に、表現力や活用力を重視した学習システムの推進。	B		
	④ 家庭学習を充実させるため、学習課題の精選や時間にメリハリある部活動の実現。	B		
基本的生活習慣の確立と、諸活動を通じた自律的な行動力の育成	① 場面に応じ、自ら挨拶をする生徒の育成。	B	○生徒会、有志生徒による地域連携など生徒の主体的な活動が充実してきた。 ○感染症防止対策につとめ、西高祭、修学旅行、クラスマッチ等の学校行事を実施し、生徒の主体性や協働性を育んだ。 ○進路講演会等で、進路実現に至るプロセスや進路情報を生徒・保護者等に伝えることができた。 ＊挨拶や服装については概ね良好だが、自ら考え自律的に行動できる生徒を育成していく必要がある。 ＊SNS等やスマホ画像の取り扱いの危険性については、今後とも注意喚起が必要である。	・コロナ禍でも、学校行事や部活動等を充実させて、生徒が主体的に活動できる機会を設定している。今後とも行ってほしい。 ・探究活動を通し、生徒の成長がよく見られる。ICTを活用したポスター作製やクロムブックを活用した協働活動など、様々改善してきている。今後とも外部、地域連携を図り、生徒が地域で活躍する機会を設けてほしい。
	② 清楚な装いと教室内外の整理整頓の徹底による学習環境の整備。	B		
	③ 探究的な学習活動、生徒会活動や部活動等、あらゆる教育活動を通じた自律的な行動力の育成。	B		

「探究ゼミ制」を核としたキャリア教育の充実	① 「探究ゼミ制」と「酒西インクル」を核に地域の多様な教育資源を活用した自己の未来を切り開く「高い志」と進路意識醸成	B	<p>○「総合的な探究の時間」を活用して、生徒の探究する力を高め、成果発表会等で発表する力を伸ばすことができた。</p> <p>○総合型選抜や学校推薦型選抜等について、個別指導をベースにした指導を学校全体として行い、成果を上げた。</p> <p>○講演会等で入試情報、これからの生き方生き方について情報を伝えることができた。</p> <p>*教員の「伴走」法や仮説検証の指導等については、今後とも研修会等を開くなどして、情報共有をすることが必要である。</p> <p>*教員による個別指導の負担軽減を図るよう計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な進路に対応した指導を十分行っている。生徒一人ひとりの進路達成に向けた個別指導により、進路指導の充実を図っているが、教員の負担増にならないように今後も留意して行ってほしい。</li> </ul>
	② 多様な進路希望や入試制度に対応した組織的支援体制の充実。	B		
	③ 大学入学共通テストを始めとする大学入試改革への対応。	B		
	④ 進路実現に至るプロセス等の生徒保護者への丁寧な説明と情報の共有。	B		
心身の健康推進と安全安心な学校生活の実現	① 「新しい生活様式」を踏まえた、安全かつ安心な学習環境の整備	B	<p>○特別支援教育委員会で、情報共有や対応を考え、合理的配慮等にも適切に対応することができた。</p> <p>○いじめ問題の早期発見に対応した生徒指導体制と年次指導体制により、大きな問題になる前に防ぐことが出来た。</p> <p>○生徒を守ることを最優先とする危機管理体制の意識の醸成を図った。</p> <p>*危機管理体制の意識醸成等については今後も継続する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題などの未然防止がよく図られている。</li> <li>今後とも多様な生徒に対応した細やかな支援をお願いしたい。</li> </ul>
	② 特別支援教育への理解に基づいた生徒理解の深化と組織的な支援体制の充実。	B		
	③ いじめ問題発覚時の迅速な対応、組織での情報共有や対応協議など、「抱えこまない」対応の実施	B		
	④ 生命を守ることを最優先とする危機管理、健康管理体制の点検・充実。生徒の健康自己管理能力育成。	B		
「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みの推進	① ホームページ等の活用による、地域への情報発信の充実。	B	<p>○公益文科大学や山形大学と連携し、生徒へ多様な学習の機会を与えることが出来た。</p> <p>*酒田市、公益文科大学との連携協定により、外部諸機関との連携をさらに深める。</p> <p>*ホームページ等による地域への情報発信については、継続して改善の必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで行ってきたことを土台にしながら、連携を進め、地域に信頼される学校の推進を図ってほしい。</li> </ul>
	② 大学、企業、行政等外部諸機関との連携と協働による多様な学習機会の充実	B		
新教育課程の着実な実施と今後の学校の在り方の検討	① 新教育課程の着実な実施と点検をすすめ、新たな観点別評価の方法を確立する。	B	<p>○ICT活用の研修や授業公開が行われた。</p> <p>○スクールポリシーや評価についての職員研修会を行い、情報共有や意見交換を行うことが出来た。</p> <p>○「働き方改革」の視点を踏まえた勤務改善や健康管理に取り組んだ。</p> <p>*「働き方改革」を踏まえた勤務時間や状況について全体での意識統一が必要である。</p> <p>*令和6年度学級減に向け、引き続き、部活動の改編、校務分掌の検討を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度からの学級減に向けて、生徒数、教員数の減員を見据え、教育課程や部活動などさらに検討が必要である。</li> </ul>
	② さまざまな研修機会の充実による、教員間の学び合いの促進。			
	③ 「働き方改革」及び「新しい生活様式」の視点も踏まえた校内諸行事や業務の再検討			
	④ 今後の学級減を見通したあるべき学校像の検討			

